

# お告げのマリア修道会

## まごころ会

2024年11月

Tel.095-846-8300



QRコードから  
アクセスして  
下さい

『わたしは主のはしためです。』

お言葉どおり、この身になりますように。』

### 鶴島巡礼

浦上四番崩れの流配地を訪ねて

昨年引き続き、お告げのマリア修道会の生涯養成推進委員会が「主と共にこれまでの歴史を実感し、今のありのままの私を正しく直視し、これから私が神様との親しさの中で共に深く生きられるように」との願いを込めて、鶴島巡礼を企画しました。参加者はシスター19名、事業所の職員2名、信徒1名の合計22名でした。

今年、浦上養育院設立から150年目の節目の年で、特に岩永マキさんにスポットを当て、改めてこれまでの歴史を振り返り、信仰の歩みを辿りました。

フリー百科事典「ウキペディア」ではこのように紹介されています。『浦上山里村の隠れキリシタン農家で、長女として1849年3月29日誕生。曾祖父が貧乏な人々に援助の手を差し伸べ、キリスト教弾圧の拷問による死者が7人に上るほど信仰心の篤い家庭であった。また、手広い商売をしていたことで、昔気質で、家庭教育に厳しい家でもあった。明治2年、「浦上四番崩れ」により、岡山県鶴島に送られた。帰郷後にフランス人宣教師マルク・マリー・ド・ロ神父の指導の下、孤児の養育施設を開き、生涯を孤児養育と救済にささげた。』



今年、作成した「お告げのマリア修道会」ののぼり



ミサを司式する白濱司教様



長崎の遺族の方が寄贈したマリア像

現存する児童養護施設の中でも最古のもの創設者のひとりであり、孤児救済の先駆者、日本の福祉事業の礎を築いた女性ともされる。』  
巡礼の3日間は、天気にも恵まれ、広島教区の信徒の皆さんと一緒にミサに参加することができました。ミサは広島教区の白濱司教様をはじめ、12名の神父様たちの共同司式でした。  
今は、無人島で、当時をしのぶ面影はあまり残っていませんが、広島教区の皆様のおかげでこうして殉教祭をすることが出来ます。この島で信仰を守り抜いた浦上教会の「旅」の記憶を伝えていくことが私たちの使命です。

## 「平和を祈願する

## 日韓 [T'aizé 祈祷会]



10月6日(日)午後7時から、お告げの  
 マリア修道会本部のホールに、長崎みつあみの  
 会(純心聖母会・けがれなき聖母の騎士フラン  
 シスコ修道女会・お告げのマリア修道会)のシ  
 スター達が集い、日本、韓国の地元で生まれ  
 た修道会のシスター達とオンラインでつながっ  
 て、祈りのひとときを持ちました。

昨年は、韓国の修道会が配信してくださいま  
 した。今年は、フランスのテゼに滞在して祈り  
 と歌を学んできたピアニストの井上友里子さ  
 んのご指導のもと、T'aizé テゼの歌を繰り返し  
 ながら、心をひとつにして、日韓の平和そして  
 世界の平和を願って祈りを捧げました。



## まごころ会会員帰天、お祈りください

- ・ミカエル 平瀬 繁己様 青砂ヶ浦教会
- ・マリア 川崎みどり様 鯛ノ浦教会
- ・ヨハネ 浅田 茂様 黒島教会

## 「死者の月」に寄せて



カトリック教会では、11月は「死者の月」と  
 呼ばれ、死者のために祈りをささげる月となり  
 ます。キリスト信者は、「死は神のもとに帰り、  
 永遠のいのちにあずかるということ」を信じて  
 います。ですから、亡くなった人の魂が永遠に  
 安らかに憩うように祈りをささげることがか  
 ねてから大切にしてきました。

11月1日を「諸聖人の祭日」としてお祝い  
 し、その翌日の2日を「死者の日」として亡く  
 なったすべてのキリスト者を記念して祈りま  
 す。「諸聖人」とは、神様のため、自分の全てを  
 ささげた人たちのことをいいます。全ての聖人  
 たちは天国の神様のもとで終わりのない幸せ  
 に包まれています。

今、生きている私たちと死者は連帯関係にあ  
 ります。故人が神のもとで永遠の幸福にあずか  
 ることができるように祈ることによって死者  
 を助けるだけでなく、死者が私たちのために神  
 に執り成してくださることを信じるがゆえに、  
 教会はキリスト教の初期時代から死者の記念  
 を深い敬愛の心をもって尊び、死者のための祈  
 りをささげてきました。死者のために祈ること  
 により、天国、煉獄にいる靈魂と生きている私  
 たちとの愛の交わりの共同体であるという「聖  
 徒の交わり・諸聖人の通功」の考えを深めてき  
 ました。

私たちは誰もが、いつの日か必ず死を迎えま  
 す。死ぬことは怖いことはありません。死は  
 人生の終わりではなく、新たな人生の始まりで  
 あり、私たちの目的である天国への旅立ちの時  
 です。死者の月は、亡くなった人たちのことを  
 考えながらお祈りをし、私たちも自分の終わり  
 について考え、準備するための月です。